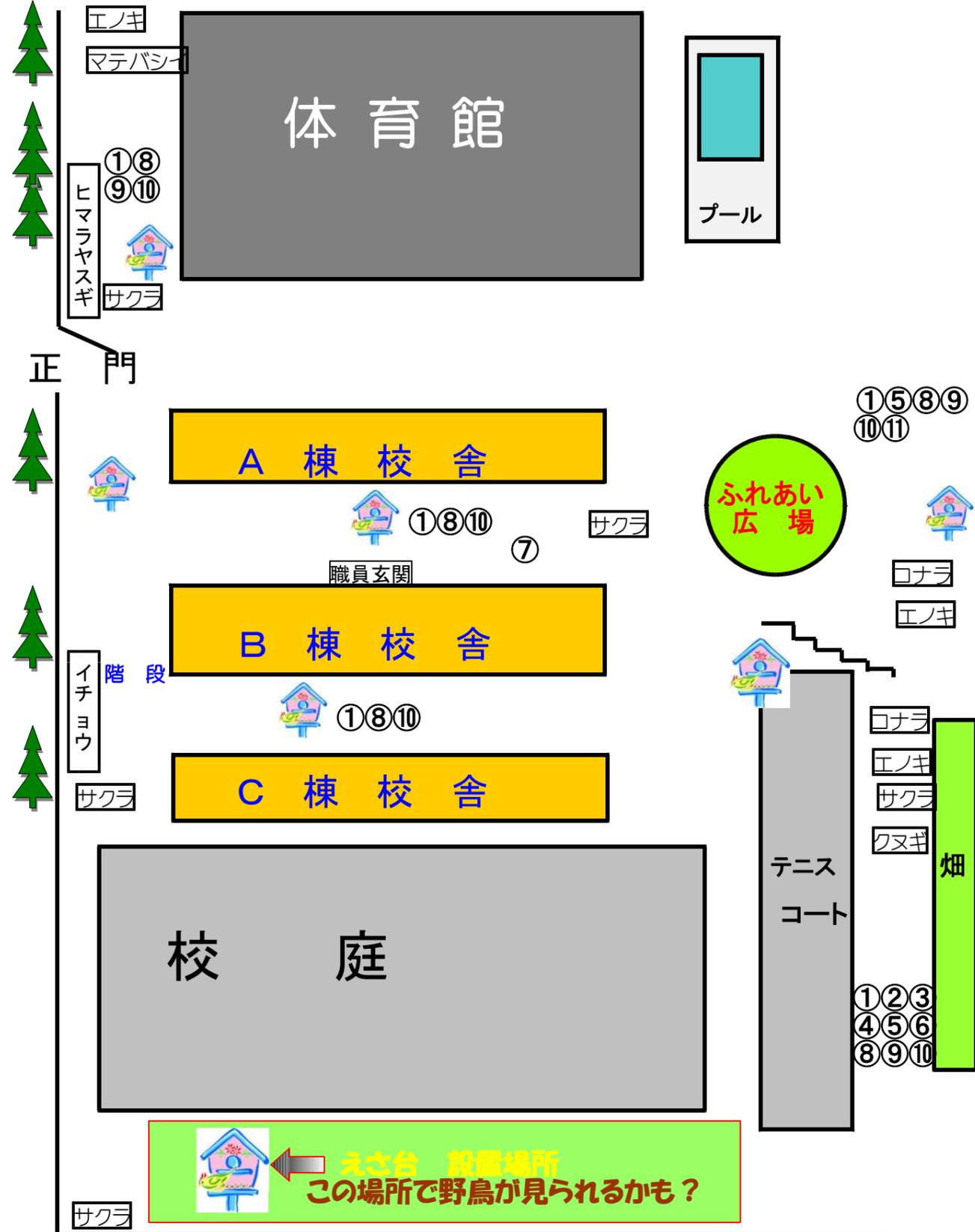


野鳥ガイドマップ

川崎市立生田中学校

生田中学校で見られる野鳥



| | | |
|---|--|---|
| <p>① ヒヨドリ スズメ目ヒヨドリ科。全長 28cm。背面は灰褐色で、頭部はやや白っぽい。腹面は淡く、白斑がある。耳羽は栗色。尾は煙黒色で長い。常緑広葉樹林に最も多くすんでいるが、都市のなかにもみられる。木の実や花蜜、昆虫類を主食とし、かん高い声で「ひーひーよ」と鳴く。</p> | <p>② コゲラ キツツキ目キツツキ科。Picooides 属とすることもある。全長 15cm の小型種。頭上、頬は灰褐色。黒褐色の顎線、汚白色の頬線と眉線があり、眉線は側頭部にまで伸びている。翼、背は灰褐色と汚白色の横縞模様。胸腹部は汚白色で、灰褐色の縦斑がある。おもに幹や枝の表面、幹内にいる昆虫を食べるが、植物の種子も食べる。</p> | <p>③ ウグイス スズメ目ヒタキ科。全長 14 ~ 15.5cm。上面と尾は緑褐色で、胸腹部は汚白色。嘴はやや長い。秋冬季には平地に移動して市街地の公園や庭などにも姿を見せ、舌打ちのような「ちゃっちゃっ」という鳴き方(笹鳴きという)をする。「けきよけきよけよ」と続けて鳴く、一般に「ウグイスの谷渡り」として知られる鳴き声は、雄の警戒声である。</p> |
| <p>④ ホオジロ スズメ目ホオジロ科。全長 17cm。雄は背面、下面とも赤褐色で、背面には黒褐色の縦斑があり、顔は黒く、喉は灰色で、白色の眉斑と顎線が顕著である。雌は全体に色が淡く、また眉斑と顎線は淡褐色で、顔も褐色で黒くない。日当りのよい土地を好み、畑、原野、草原、低木林、下生えの茂った疎林などに生息する「一筆啓上仕候(いっぴつけいじょうつかまつりそうろう)」と鳴くと聞きなされている。</p> | <p>⑤ オナガ スズメ目カラス科。全長 36cm。体は灰色で、頭は黒く、翼、尾は灰青色。尾が長い。平地から低い山地にある市街地、公園、庭などの林に生息し、繁殖期以外は 10 ~ 数十羽の群れをなす。昆虫や木の実を食べる雑食性。普段は「くーい、きゅうーい」と鳴き、警戒するときは「ぎゅーい、きゅいきゅいきゅい」などとけたたましく鳴く。</p> | <p>⑥ ヤマガラ スズメ目シジュウカラ科。全長 14cm。おもに常緑広葉樹林に生息するほか、巨木の多い針葉樹林にも生息する。北方で繁殖するものは少し南方に移って越冬するが、多くは留鳥である。昆虫類、クモ類のほか木の実を好み、両脚と嘴をうまく使って食べる。「つーつーびー、つーつーびー」と比較的ゆっくりした調子でさえずる。</p> |
| <p>⑦ キジバト ハト目ハト科。俗にヤマバトともいう。全長 33cm。頭部から胸腹部にかけては、淡いぶどう色を帯びた灰褐色。頭の側部には黒色と灰青色の横縞模様の斑がある。背は黒褐色で、赤褐色のよく目立つ鱗状斑がある。特徴のある声で「でーぼー」と聞える声で鳴く。</p> | <p>⑧ シジュウカラ スズメ目シジュウカラ科。全長 15cm。頭は黒色で頬が白く、背面は灰青色で、後頭と上背が緑色を帯びている。下面は汚白色で、喉、胸、腹の中央が黒い。落葉樹林に多く、都会の公園や庭などでもよくみられる。樹洞に営巣し、巣箱もよく利用する。冬には庭先の餌台をよく訪れるのでなじみ深い鳥である。</p> | <p>⑨ スズメ スズメ目ハタオリドリ科。全長 15cm。背面茶褐色で、背と肩には黒色の縦斑があり、耳羽、腮、喉、上胸は黒色、胸以下の下面は汚白色である。日本では留鳥として全国の都会や農村の人家近くにすみ、屋根瓦の下、建物のすきま、巣箱などに営巣している。秋から冬の間は群れをなして生活し、雑木林やタケ藪を集団のねぐらにする。種子食であるが、昆虫類もかなり食べる。</p> |
| <p>⑩ メジロ スズメ目メジロ科。全長 12cm。羽色は上面黄緑色、下面が黄白色、脇は淡褐色。和名が示すように眼のまわりに白色の環状羽がある。</p> | <p>⑪ セキセイインコ スズメ目セキセイインコ科。全長 21cm。後頭、顔、背、胸は黒色で、額、眉斑、腮、腹は白色。翼と尾は黒白 2 色より成る。河原、土手、人家の軒下などに巣をつくる。キセキレイより濁った声で「じーん、じーん」と鳴く。</p> | <p>◆お願い◆ 野鳥は大変警戒心が強く、少しの音でも危険を感じて逃げてしまいます。えさ台に野鳥がいる時は、音をたてたり、近づいたりしておどかさないように注意してください。安心してエサを食べられるようにしてと、野鳥も安心して美しい姿を見せてくれたり、きれいな鳴き声を聞かせてくれます。</p> |